

支部長からのお礼のご挨拶

第74回日本生化学会中部支部例会・シンポジウムが平成22年5月29日(土)に名古屋大学大学院医学系研究科・中央診療棟3階講堂にて開催されました。参加者はおよそ200名を数え、盛況のうちに無事終了いたしました。

シンポジウム「シグナルネットワークの解明に向けて」では、黒田真也先生(東京大学)に「AktとERK経路のシステム生物学」、松田道行先生(京都大学)に「低分子量GTP結合タンパク質の四次元イメージング」、箱嶋敏雄先生(奈良先端科学技術大学院大学)に「CD44の細胞内相互作用の構造的基礎」、中山敬一先生(九州大学)に「次世代プロテオミクスが拓く生命科学研究の新地平」、稲垣昌樹先生(愛知がんセンター研究所)に「抗リン酸化抗体とチェックポイントシグナル」という演題で、さまざまな角度からのシグナルネットワーク解明へのアプローチについて最新データの紹介を含めて魅力的なご講演をいただきました。会場からは活発に質問があり、それぞれの先生の講演が30分では短いと感じさせられるシンポジウムでした。

ポスター発表(演題総数56)は、一分間口頭発表による紹介と2時間にわたるポスター討論という形式で行われました。シンポジストの先生方にもご参加いただき、活発なディスカッションが行われました。発表者ならびに生化学会員による投票により、井澤俊明さん(名古屋大学)、加藤愛友美さん(名古屋市立大学)、矢木真穂さん(名古屋市立大学)の3名が奨励賞受賞者に選ばれました。

総会におきましては、支部の平成21年度の活動報告、会計報告ならびに次期支部幹事投票結果をご承認いただきました。続いて、上記3名の奨励賞授賞式を行い、すぐれた研究発表を讃えるとともに、研究の一層の推進をお願い致しました。また今回は、日本生化学会の北会長のご参加をいただき、総会において昨今の科学政策や生化学会を取り巻く状況、学会の今後の指針などについてお話をいただきました。さらに、中部支部をふくめ各支部において活発な活動がなされているとの感想をお話されました。そして最後に来年度支部長として奥直人先生をご承認いただくとともに、奥先生にご挨拶と来年度の例会・シンポジウムのご案内をいただき、全スケジュールを終了致しました。

日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにご参加くださいました皆様に厚くお礼申し上げますと共に、協賛・広告等でご協力くださいました企業の皆様にも厚くお礼申し上げます。今後の皆さまのご研究の益々のご発展をお祈り致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

日本生化学会中部支部長

名古屋大学大学院医学系研究科 貝淵 弘三